

令和3年3月1日に思う

「相応しい」という言葉を聞いて、皆さんはどんなことを想像されますか？

私は真っ先に、本村の川上小学校の校歌とそこに学ぶ子どもたちのことが浮かびます。「誠に相応しい」と。

皆さんはその校歌をご存知でしょうか。

【川上小学校校歌】

・みよしのの 吉野の川の 川上は 大昔から 人が住んでた

川しもへ 世界へ 光を流したのさ 明るく 笑い 手を取りあつて

さあ 森のかおりと 友情を おくろうよ ここから

・みよしのの 吉野の川の 川上は 大昔から 水が澄んでた

川しもへ 世界へ 力を与えたのさ しっかり 学び よく考えて

さあ 森のふかさと ひらめきを おくろうよ ここから

・みよしのの 吉野の川の 川上は 大昔から 山が生きてた

川しもへ 世界へ 心を配ったのさ こどもら みんな 元気に遊び

さあ 森のいのちと 歌声を おくろうよ ここから

歌詞の中に、「世界」という言葉がたびたび登場し、「川上村が、ここから世界と川しもへ光を流し、力を与え、心を配っている」とあります。なんとスケールの大きい、壮大かつ崇高な思いを綴った校歌でしょうか。この気高く品のある校歌は、多くの皆さんに愛され親しまれていると思います。

昨年12月、川上小学校の「かみせタイム学習発表会」が開かれ、3年生が「校歌について考えてみた」という発表を行いました。低学年の子どもたちが、この歌詞の意図するところを読み取り、「吉野川分水」の歴史と「吉野林業」の文化を話題とした発表したのです。この2つの物語は、まさに水源地の村の“源”であり“誇り”とするものです。水源地の村づくりの精神は、この校歌とともに、子どもた

ちの心の中に宿っていることを確信し、とてもたのもしく感じました。

新年度になれば、義務教育学校の実施設計や給食施設工事に着手します。さらに心して子どもたちの教育環境を整えることに取り組みます。皆さんも、この春また一歩階段をあげる子どもたちを、ぜひ応援してください。